

令和6年度第4回大阪府子ども家庭審議会大阪府子ども計画策定専門部会議事概要

日 時：令和6年11月7日（木）15:00～17:45

場 所：大阪赤十字会館 302 会議室

出席者：奥野委員、長上委員、宿南委員、竹本委員、田畑委員、農野委員、森田委員、山野委員（五十音順）

概 要：

【議題】大阪府子ども計画（案）について

■資料2-1・1-1・1-2・1-3・1-4について、事務局から説明

〈委員〉

・「子どものバス送迎における安全徹底」について、施設側の管理だけでなく、一般車両の協力が不可欠。幼稚園バスと思って割り込まれることがあるため、追い越し禁止等の法整備がある諸外国の例も踏まえ、周囲の一般車両の理解が必要である旨を記載してはどうか。

〈委員〉

・ヤングケアラーなど見えにくい課題の発見について、政府も DX や IT 活用へ舵を切っている。10 代の自殺率が増加傾向にある中、この計画でも IT や DX を用いて潜在的な課題を拾い上げる視点は盛り込まれているか。

〈部会長〉

・今後はこども家庭センター等が中心となり、予防や見守り体制を作り、問題があれば拾い上げるシステムが必要。母子保健や児童虐待などの支援に DX を活用していくことになると思う。

〈委員〉

・子どもの貧困対策計画ではスクリーニングシステムや DX に触れている。計画本体にも、すぐに実現できなくとも方向性として記載すべきではないか。

〈事務局〉

・孤独・孤立対策の項目で、孤立状態にある人を拾い上げる趣旨の表現を入れているが、IT や DX の視点が明確でない部分もあるため、担当課と調整する。

〈委員〉

・青少年の犯罪防止について、最近「闇バイト」のように、好条件に釣られて意図せず犯罪に巻き込まれるケースが増えており、防止策が必要ではないか。

〈事務局〉

・現在、SNS を利用する青少年向けに、闇バイトやパパ活への注意喚起を行うターゲティング広告の実施など記載している。

〈委員〉

・小学校では SNS トラブルが課題となっており、通信会社等と連携した講座を行っている。

【議題】パブリックコメント及び対応について

■ 資料 2 - 2 について、事務局から説明

〈委員〉

・パブリックコメントの半数以上が外国籍の子どもに関する意見とのことだが、これを受けて計画の修正や新たな対策を検討するのか。

〈事務局〉

・主に朝鮮学校への助成に関する意見であり、府としての考え方を整理して回答している。個別の施策判断は教育委員会等で行われるべきものとする。

〈委員〉

・保育士不足に関する意見も多いが、処遇改善を行っても人材紹介会社への高額な紹介料や派遣費用に費用がかかり、現場の保育士の給与是正に繋がりにくい実態がある。採用促進に向けた対策をお願いする。

〈部会長〉

・外国籍の子どもの教育については、大人の事情で子どもに皺寄せがいかないよう、子どもの最善の利益と人権を守るという視点を、広い視座を表すような文章の中に盛り込めればと良いと考える。

〈委員〉

・保育士や教員など、子どもを支える周囲の人材を豊かにすることは切実な課題。子どもを支える大人にフォーカスした文言はどこかに記載しているか。

〈事務局〉

・保育士や学校の教員などの人材不足について社会全体でフォローしていくことを記載している。人材確保・育成については、重点施策や個別事業の中にも盛り込んでいる。

〈委員〉

・保育士養成校の閉鎖や定員縮小が続く中、中高生の「保育士になりたい」という夢を叶えられる社会であることを伝えていく必要がある。

〈委員〉

・「すすくウオッチ」やチャレンジテストについて、現場の負担感や実効性に疑問の声がある。非認知能力など、ペーパーテストでは測れない力の評価や、子どもが将来を描けるような教育のあり方を検討すべき時期に来ていると思う。

〈部会長〉

・国連の子どもの権利委員会からも日本の教育の子どもへの負担について指摘がある。学習者自らが考え、取り組む力を培う方向へ進むべき。

〈委員〉

・授業形式は ICT 導入も進んでいるが、教員自身が変わる必要があり、現場の対応には差がある。

〈委員〉

・非公表のパブリックコメントが 33 件ありますが、どのような内容でしょうか。

〈事務局〉

・個人情報等の関係で非公表としていますが、内容的には公表されている意見と大きな差はありません。

〈委員〉

・外国籍の子どもの増加や教員・保育士不足は、府だけでなく国と協力して取り組むべき課題。特に保育士等の「しんどい」というネガティブなイメージを払拭し、変革していくことが必要。

〈委員〉

・DX に関連して、収集したデータを子ども自身が利活用できていない。この計画に盛り込むのは難しいと思うが、将来的に子どもが主体的にデータを活用できるような含みを持たせた記述があるとよいと思います。

〈部会長〉

・高度な IT とどう向き合い、使っていくのかという視点も大切ではないかと思う。

【議題】その他について

■ 資料 3 - 1・3 - 2・3 - 3 について、事務局から説明

〈委員〉

・アンケート結果で「今の自分が好き」と答えた子どもが半数以下であることが気になる。自己肯定感の低さが、他の項目にも悪影響を及ぼしているのではないか。

〈委員〉

・日本の自己肯定感の低さは国際的にも顕著。ペーパーテストの点数だけでなく、人の役に立つ体験や感謝される場面など、生活の中で自己肯定感を高める手立てが必要。

〈部会長〉

・この調査結果を多くの子どもに関わる大人に見てもらい、一人ひとりの子どもを認め、支える意識を持っていただきたいと思う。

〈委員〉

・「居場所」がある子どもほど自己肯定感が高いことが分かっている。貧困世帯の子どもほど居場所がない傾向にあり、家庭と学校以外に多様なチャンネルを持てる社会を作ることが課題。

〈部会長〉

・本日の意見を踏まえ、事務局で計画（案）を修正し、最終的に部会長である私が確認の上、子ども家庭審議会へ諮るということで、私に一任いただけますでしょうか。

（異議なし）

〈部会長〉

ありがとうございました。